

安満遺跡公園内雨水貯留施設

～総合雨水対策アクションプラン～



1. 高槻市の浸水被害

H24.8.14の浸水地域
本工事で
浸水被害軽減地域

安満遺跡公園内
雨水貯留施設

平成24年8月14日集中豪雨
時間最大雨量 110mm
床上浸水 247か所
床下浸水 597か所

JR高槻駅北側

国道171号

野見町

2. 総合雨水対策

総合雨水対策推進本部設置(平成24年11月)
関係部局が連携し、緊急かつ効率的に対策を推進するため庁内組織を整備。

高槻市総合雨水対策基本方針(平成25年2月)
総合雨水対策を推進するため、内水氾濫を中心とした取組の方向性を決定。
具体化

高槻市総合雨水対策アクションプラン(平成27年2月)
基本方針に基づき実施する平成27年度から20年間の具体的行動計画。

3. 総合雨水対策の目標

既往最大降雨(平成24年8月<時間当たり最大降雨110mm>)に対して、
・浸水被害から人命の安全を図ります。
・できるかぎり都市機能の確保や個人財産の保護を図り、浸水被害の最小化を目指します。

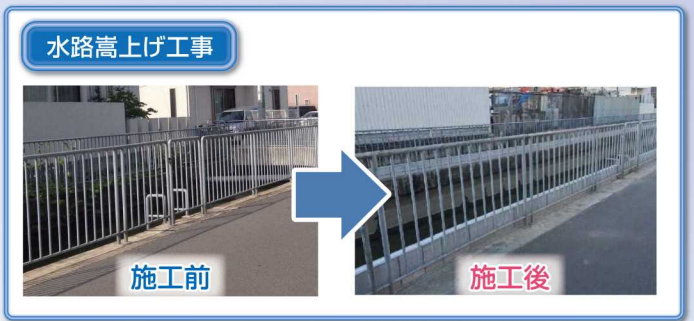
雨水貯留施設整備基準

	内容	雨水貯留施設整備基準
都市機能の確保	緊急交通路や市役所等防災関連主要施設の機能が確保される	20cm未満 ※1
個人財産の保護	一般市街地の家屋の床上浸水が防止できる	45cm未満 ※2

※1 乗物の移動限界となる浸水深
※2 建築基準法における居室の床の高さの基準

4. 総合雨水対策の取組

- ①雨水貯留施設等のハード対策(公助)の整備により、浸水被害を軽減。
- ②市民・事業者などによるソフト対策(自助・共助)の支援。



5. 安満遺跡公園内雨水貯留施設の建設

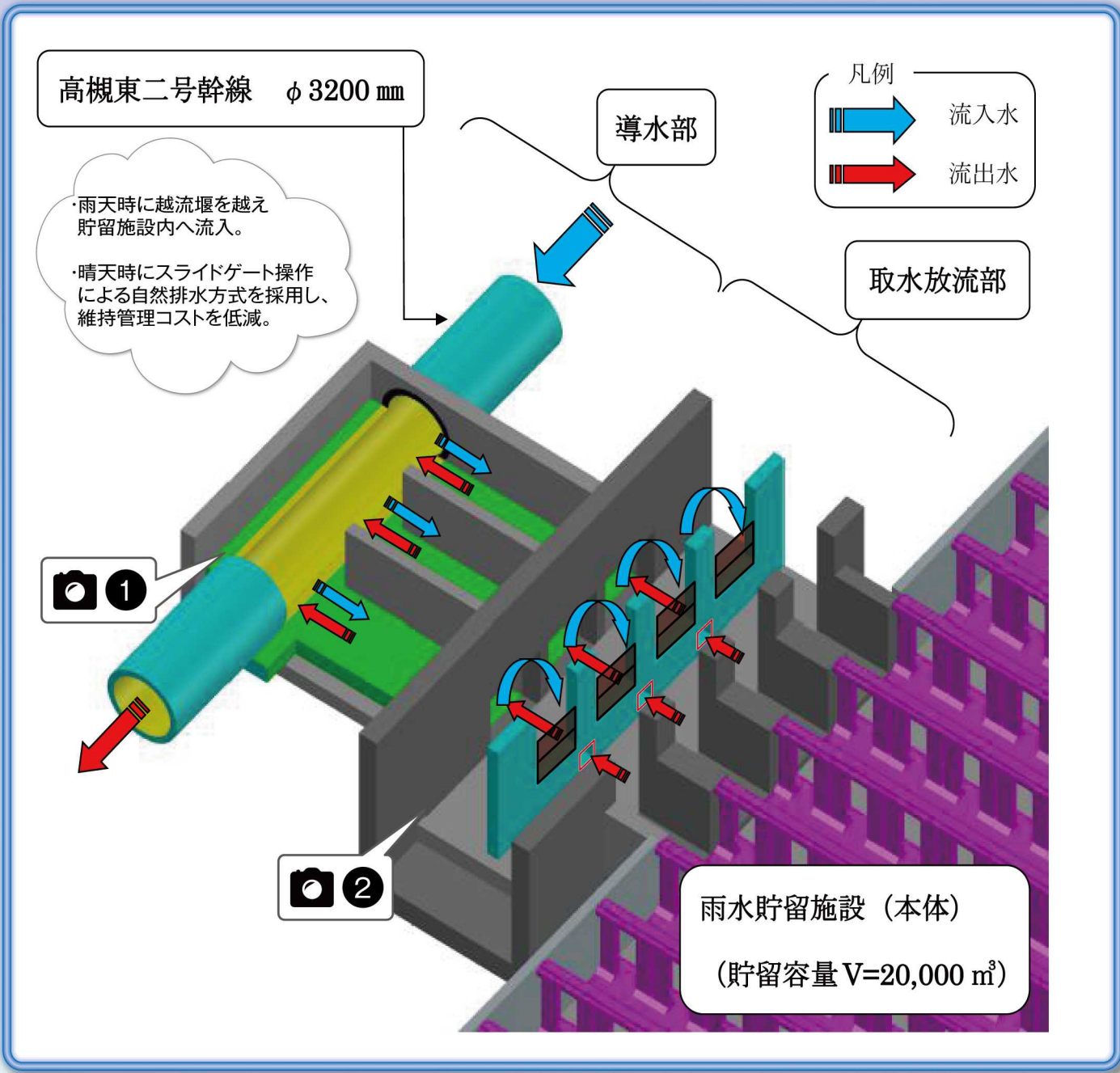


6. 工事概要及び目的

本工事は、平成24年8月に時間最大110mmの豪雨を記録した際、浸水被害が発生した高槻東排水分区(Aブロック)にハード対策として雨水貯留施設(V=20,000m³)を整備するものです。

また、安満遺跡公園整備事業の一環として施工するもので、近年頻発している集中豪雨等に対し、下水管や水路から溢れそうになる水を一時的に貯留することで下流地域の浸水被害軽減を図ることを目的としています。

7. 雨水貯留の仕組み



8. 雨水貯留施設建設工事施工状況



① 平成27年5月 埋蔵文化財調査状況



④ 平成28年8月 一次施工 据付完了



② 平成28年6月 プレキャストブロック据付状況



⑤ 平成28年12月貯留施設内部見学状況



③ 平成28年7月 プレキャストブロック据付状況

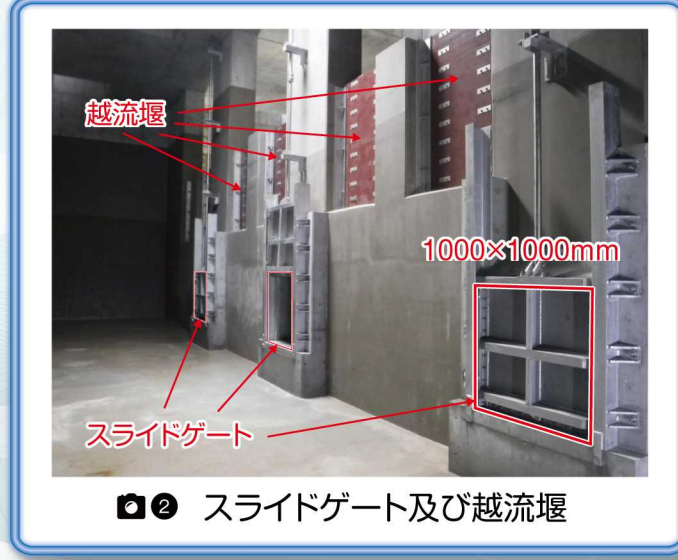


⑥ 平成29年3月 貯留施設内部完成状況

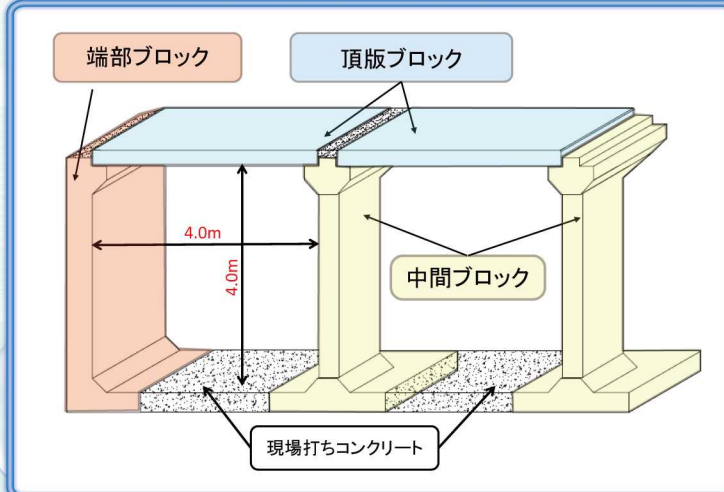
9. 使用部材



① 高槻東二号幹線内部 (下流→上流)



② スライドゲート及び越流堰



※使用部材を工場製作し、運搬及び据付けすることで約120日間の工期短縮。

雨水貯留施設プレキャストブロック使用材料			
部材名	寸法 (mm)	重量 (kg)	個数 (本)
端部ブロック	H=4000×1495	9500	88
中間ブロック	H=4000×1495	7120	924
頂部ブロック	H=3960×1495	5180	966

安満遺跡公園内雨水貯留施設全景



雨水貯留施設内部

雨水貯留施設

貯留容量	V=20,000m ³ (25mプール 約55杯分)
ゲート設備	3基
脱臭装置	8基



雨水貯留施設

取水放流部

導水部

高槻東二号幹線
Φ3200mm

99.7m

66.0m

←京都

阪急京都線

大阪→

安満遺跡公園内雨水貯留施設 デザインマンホール蓋

弥生人足跡



小区画水田跡



古代米
(赤米)

白米

デザインの意図

一帯には、今から約2500年前にさかのぼる、弥生時代前期の環濠集落・安満(あま)遺跡が広がっています。塚をめぐらせた居住域、水田が営まれた生産域、ムラの人たちが葬られた墓域を含む遺跡の中心部は、将来にわたって伝えていく大切な歴史遺産として、国の史跡指定を受けて保存と整備が図られています。

マンホール蓋のデザインは、米作りに欠かせない「水」、発掘調査で見つかった弥生時代の「水田」と「弥生人の足あと」、そして古代米「赤米」と今につながる「白米」の稲穂をモチーフにしています。幾度の洪水被害を乗り越えてたくましく生き抜いた、安満ムラの人々に思いを馳せてみてください。

安満遺跡公園

